

看護週間特別企画2022

誇れる仕事 夢ある未来

— 看護師・看護学生にインタビュー —

取材協力 / 各医療機関・専門学校

近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、5月12日に制定された「看護の日」。12日を含む週の日曜日から土曜日までが「看護週間」です。

2022年の看護週間は5/8日～14日です

Interview — 看護師育成のKey Person

人の人生に 寄り添う仕事

平塚市民病院 副院長兼看護部長
稲村 ほづみさん

地域医療の中核を担う平塚市民病院。院内の看護師を束ねる看護部長にこの春就任した。稲村さんは「治療の高度化が進む現代では、看護師もまた一段階上がった力が必要となります。経験と技術に裏打ちされた知識と、瞬時に適切な対応ができる判断力。患者様のためにも看護師全体のチーム力を

高めていかなければいけません」と力を込める。

稲村さん自身、大学では経済学を専攻し、当初看護師になることは考えていなかったという。将来の職業について悩んでいたところ、知り合いに「やりがいがあって、未来のある仕事」として紹介されたのが「看護師」だった。26歳で平塚市民病院に入職すると、当時の看護部長に看護師としての理想像を見た。「通常、あまり現場に立つことのない立場であるのに、積極的に患者やスタッフから話を聞く。家族に配慮して訪問を避ける面会時にこそ病室を訪れ、家族からも患者の様子を聞いていた」。その後ろ姿を見て学び、今では職員たちに「“気づき”と、チー

ムでの情報共有を大切に」と伝えている。

2年前、新型コロナウイルスの流行が始まると、市民病院でも延べ500人を超える患者を受け入れてきた。感染防止対策のため、患者の家族でも面会が出来ない日々が続く。それでも会いたいという家族のため感染防護指導の上、手をにぎってもらおうとしかできないことにほぞを噛んだという。しかしこの2年で、患者にできるだけ孤独感を感じさせないようにiPadで面会ができるよう設備を整え、院内にWi-Fiを導入した。「コロナ禍はもちろん大変なこと。でも悪いことばかりではない。挫折をプラスに変えていく気持ちが大事。これからも人の人生に寄り添う仕事ができれば」と前を向いた。



やりがいは「ありがとう」

医療法人社団水野会 平塚十全病院 看護部 酒井 亜里也さん



2024年6月に創立50周年を迎える平塚十全病院は、緑あふれる環境の中でやすらぎの日々を送ることが出来る療養型施設。今年2月に入職した酒井さんは、1歳の子どもを育てながら働くママ看護師だ。独身時代は急性期病院で働いていたが、出産を経て「院内保育があり残業も少ない十全病院なら、子育てしやすい環境だ」と思っていた。同院へ。実際に働いてみて「子育て中の看護師の

先輩がたくさんいて、理解があり相談にも乗ってくれる」と働きやすさを実感。医師、看護師、介護士とチーム一丸となって支え合う体制づくりを徹底している。幼いころから母親の付き添いで病院に行くことが多く、「看護師さんがやさしかった」と、自然と看護師を志した。現在は母親の介護を通して、「家族看護」に興味を持っている。「患者さんはもちろん、ご家族の不安を軽減し、健康を維持するためのケアを提供できるような努めていきたいです」と話す。「患者さんからの『ありがとう』の言葉と笑顔が最高の宝物」。そう話す表情は、まさに白衣の天使だ。

心に残る看護師に

平塚市民病院 救急病棟 町田 美紀さん



看護大学を卒業後の昨年4月、平塚市民病院に入職。38人の同期の中で救急病棟に配属され、今年2年目を迎えた。病棟には脳や心臓の疾患、重症外傷などの緊急性が多く、状態の不安定な患者が入院してくる。的確で迅速な対応と多くの技術が求められるハードな現場。はじめは戸惑う場面も多かったが、先輩や同期に支えられながら、目まぐるしくも充実した1年を過ごした。

幼稚園の頃から看護師になることは決めていた。やりがいを感ずるのには、自分が担当した患者が歩いたり話せるようになったり、快方に向かうとき、「責任は大きけれど、人の役に立っている実感が湧きます」と前を向く。ある時、外傷を負って運び込まれた患者に対応したが、幸い数日で退院となったが、翌日の患者から自分宛てに「初めての入院で不安だったけれど看護師さんの笑顔でがんばれた」とのメッセージが届いた。町田さんは「入院はどうしても辛いもの。私たちが患者さんの不安を少しでも和らげ、人生のアルパムの良い思い出の一枚になれたら」と優しく微笑んだ。

求人 インフォメーション

今回取材に協力して頂いたのは2つの医療機関と1つの専門学校。ここでは各施設の概要を紹介します。看護師や学生募集については二次元コードから（順不同）。

●平塚市民病院

●病院DATA 病院長 / 山田健一朗。昭和43年開院。病床数416床。職員数693名。平塚市南原1-19-1 ☎0463-32-0015 https://www.hiratsuka-city-hospital.jp



●医療法人社団水野会 平塚十全病院

●病院DATA 病院長 / 鈴木周雄。昭和49年開院。病床数230床（医療療養3棟、一般1棟）。職員数198名。平塚市出縄550 ☎0463-32-8511 https://sp.hiratsuka-juzen.com/



●湘南平塚看護専門学校

●学校DATA 校長 / 中野裕子。1994年4月に開校。定員120人。「自由な教育」をモットーに心ある看護を学んでいく。平塚市富士見町5-17 ☎0463-30-1900



幼い頃寄り添ってくれた存在に

湘南平塚看護専門学校 3年 志村 慎白落さん



幼稚園の頃の入院経験から、看護師に憧れを抱いた。「治療でつらい時、話を聞いてくれて心に寄り添ってくれていました。あの時の看護師さんのようになりたい」と、淡い憧れは夢、目標へと変わり、同校への進学を決めた。1～3年生までの縦割りの少人数グループに担当教諭がつく「チューター制」は同校の特色の一つでもある。「1年生を見

ていると数年前の自分のように勉強面で悩んでいるのかな、実習が不安なのかな、と思うことがありますが。自分がそうしてもらったように声をかけようとしています」と自分の成長を感じるきっかけにもなっている。最終学年となり、この1年間は、病院を中心とした実習がメインとなってくる。1・2年生のときに病院実習で感じた課題を、克服する一年にしたいと意気込む。「受け持った患者さんとのコミュニケーションをもっと円滑にしたいです。患者さんに聞くばかりではなく、自分のことも話しながら寄り添えたら」と、夢を叶えた姿を思い描いていく。

看護師 になるには

看護師になるには、国家資格である「看護師資格」が必要。看護師資格を取得するには、4年制大学、3年制の短大・専門学校、5年一貫教育を行う高等学校などを卒業し、看護師国家試験に合格しなくてはなりません。准看護師から看護師になるルートもあります。